

感染症対策をしっかりと
 そして心の中に物語をもつ

校長 Sr. 大山 江理子

夏休みを終えて、学校が始まります。9月からの学校生活は感染防止対策を改めて意識して始めます。子どもの成長に学校での学び、関わり作りは重要です。ご家庭のご協力も得ながら、子どもたちの学校生活を整え、守っていききたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。聖心は一つの家庭として、自分の健康を守るとはみな健康を守ること、お互いに支え、助け合うという気持ちで進んでまいりたいと思います。

今年も子どもたちから多くのお便りをもらいました。保護者の方々からも多数いただきました。ありがとうございました。御礼申し上げます。子どもたちの便りには夏休みにがんばっていること、楽しんでいること、考えていることが書かれてあり、楽しいイラストからも、コロナウイルス禍の制限下でもご家族と共に充実した日々を送っていることが伝わってきました。中でも一人の保護者の方から、コロナ禍も2年目となると色々な方法を工夫して楽しむことができるようになったが、去年の方が苦しむ人々、医療従事者や働く人々に感謝する機会も多かったのではないかと、忘れないようにしたい、という思いを伝えていただいた1枚はとて心に残りました。

お子さんは夏の間読書も楽しまれたことでしょうか。物語の力を再認識しています。日頃の生活でいつの間にか繰り返して埋没しそうなときにも、おもしろい物語に出遭うと新しい世界が広がります。見失っていた意味や価値を思い出させてくれることもあります。子どもが色々な本、ストーリーに触れて、多様な物語を心の中にもっていることは生きる力になります。とは言え、様々な物語が存在します。破壊的で残酷な物語もあります。オリンピック・パラリンピックも数々の意味深い物語を伝えてくれるイベントですが、今回は賛否両論の中での開催で、矛盾を含んだ物語となっている部分もあります。お子さんごとのように話そうかと苦慮された方もあるかもしれません。私たちが心の中に持つ物語は、日々の生活で出遭う出来事を意味づけたり、理解したりする助けとなります。どのような物語を心の中で育てていくか、吟味する必要もあります。いのちを活かす、力を生み出す物語を大きくしたいものです。

聖心の大事な物語はイエスの物語と聖マグダレナ・ソフィアの物語。一人ひとりの児童の心の底の、物語の原点としてしっかりと根づいていってほしいと願っています。

～ 児童の夏の便りから 一部を紹介します ～



それぞれの金メダル

この夏休みをどのようにお過ごしなつたでしょうか。開催の是非が問われたオリンピック・パラリンピックでしたが、子どもたちからいただいたお便りには、活躍する選手たちの姿に「自分もあきらめずに最後までがんばるような人になりたい」「だれかを感動させられる人になりたい」と素直な感想がたくさん書かれていました。メダルを獲得する選手たちは、人一倍努力をし、その努力を継続する力のある人たちです。子どもたちは成長するに従い、努力がすぐには結果に結びつかないことを学んでいきますが、思うように行かない時やつまづいた時、オリンピック選手の姿がもう一步を踏み出す力になってくれることでしょうか。



アメリカ代表に選ばれた4名の聖心姉妹校の卒業生について、校長ブログでシスター大山より紹介がありました。その中で特に注目したのは、3回目のオリンピック出場を果たした水泳のKate Ledecky選手です。15歳で出場したロンドンオリンピックで金メダルを獲得し、リオデジャネイロオリンピックでは200m、400m、800m、4×200mリレー、4×100mリレーで4つの金メダルと1つの銀メダルに輝き、世界記録保持者でもあります。今回の東京オリンピックでも、1500m自由形の初代チャンピオンになり6個目の金メダルを手に入れました。Ledecky選手は、一流のアスリートであると同時に、明るく前向きな人柄や、スポーツマンシップ、社会への発信力の高さは皆を惹き

つけ、一目置かれる存在だとある記事で読みました。現在スタンフォード大学に通っていますが、これからの教育に大変関心があり、日本でも最近話題となっている「STEAM」教育を広める活動をしています。なぜ、大学に行くのかと問われたLedecky選手は、選手としてのキャリアが終わった後に何もない人生にしたくないと話しています。自分の人生を今だけでなく、先まで考えながらしっかり歩いている姿に、今後どのような人生を歩むのか見守り続けたいと思いました。日本の聖心の子どもたちとも交流ができれば・・・と密かに夢が膨らみます。



「入院している子どもたちや、負傷した兵士に会った時に金メダルを見せると皆笑顔になる。誰かを笑顔にできるのは、自分にとって何より意味があること」とインタビューに答えています。



彼女が金メダルを自分の喜びのためだけでなく、他者を喜ばすためであると考えている点は、「誰かのために」を実践する聖心の子どもたちと同じです。聖心の卒業生らしい言葉です。子どもたちも、自分の得意なことで誰かを喜ばせることができたなら、その喜びは自分だけで得る喜びの何倍にもなることでしょうか。これからの人生で一人ひとりがどんな金メダルを首にかけるとか、とても楽しみです。

9月の予定

- 6日(月) 1年・転入・編入生保護者会
- 8日(水) 母の会代表幹事会
- 9日(木) 5年まとめのテスト①
- 20日(月) 敬老の日
- 23日(木) 秋分の日
- 30日(木) 5限まで授業



10月前半の予定

- 1日(金) 都民の日(休日)
- 4日(月) 1年・転入・編入生保護者会
面接日 午前授業
- 6日(水) 午前授業
- 7日(木) 前期終業式
- 8日(金) 秋休み
- 8日(金) ~9日(土)
みこころ祭(初等科の参加はなし)
- 11日(月) 後期始業式 身体測定 3・4限授業
防災引き取り訓練(1年生のみ)